

発 表 日 : 令和3年2月5日 (金)
都道府県名 : 北九州市
学 校 名 : 北九州市立南小倉中学校
校 種 : 中学校
教科・科目等名 : 保健体育科

令和2年度 国立教育政策研究所 教育課程指定事業
研 究 協 議 会



主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善

【主体的・対話的で
深い学び】

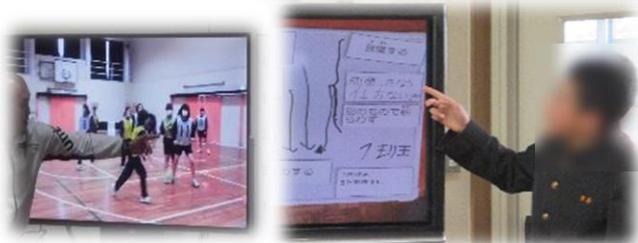
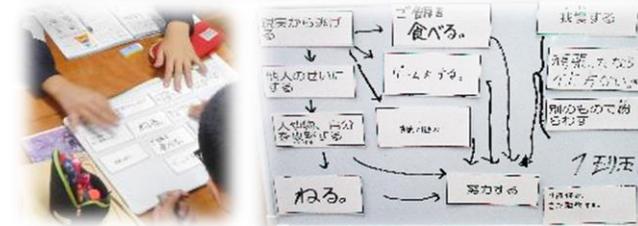
- ・ 見通し
- ・ 協働
- ・ 振り返り
- ・ 深まりを実感

【指導の工夫】

手立て①
(単元における指導と
評価の計画の検討)

手立て②
興味・関心の喚起
ユニバーサルデザインの視点
(知識の明確化, 可視化)

手立て③
ICTの活用
(出来栄の確認)



研究1年目の成果

- 単元の指導計画を評価方法と関連させて作成する
- ICTを活用し、動きを共有、他者へ伝えるためのツールとして有効
- 生徒が主体的に話し合いに参加するための手立て
- 運動が苦手な生徒に対する手立て**

研究1年目の課題

- 生徒にとっての「深い学び」とは
- 指導方法の効果を示す根拠は
- 指導と評価の一体化とは

研究2年目の研究主題と手立て

【研究主題】

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善

～生徒の主体性を重視した学習活動の展開を通して～

- 指導と評価の明確化
- 運動が苦手な生徒への手立て
- ICTの活用

指導計画，指導方法，評価方法の修正を加えながら，三つの資質・能力を高め，深い学びへ誘う実践事例を提案する。

体育分野 実践 I

第 1 学年

器械運動「マット運動」

手立て① 単元設計による指導と評価の明確化

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うことができるようにする。 ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行い、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることができるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなど、健康・安全に気を配ることができるようにする。

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	
		健康観察、準備運動、本時の課題確認								
	5	動きづくり（くま歩き・かえる跳び・川渡り・ゆりかご・背支持・ブリッジ）								
学習の流れ	10	オリエンテーション ・見通し ・特性 ・安全面の配慮 (知①、態①)	仲間への補助・助言 (態②)	前時の復習 (技①)	前時の復習 (技②)	前時の復習 (技③)	構成した技の改善	発表会の技を決定	発表会に向けての練習	
	15		平均立ち技群 (知②、技①) 片足平均立ち補助倒立	接転技群 (知②、技②) 前転・開脚前転・倒立前転	ほん転技群 (知③、技③) 側方倒立回転倒立ブリッジ	自分に適した技を組み合わせる	グループの仲間の良いところ・改善点を見つけ、伝える(思①ワークシート)	体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて楽しめる(思②ワークシート)		
	20									
	25									
	30		小学生の復習くま歩き・かえる跳び・川渡り・ゆりかご・背支持ブリッジ・前転・後転	グループの仲間の良いところ・改善点を見つけ、伝える(思①ワークシート)						
	35			平均立ち技群 (知②、技①) 頭倒立	接転技群 (知②、技②) 後転・開脚後転	ほん転技群 (知②、技③) 頭はねおき	考えた技の練習	グループ活動「はじめなかーおわり」の技の練習		「はじめなかーおわり」の基本技の発表会
40										
45	学習カード 知①	学習カード 知②	学習カード 知②	学習カード 知②	学習カード 知①		仲間への補助・助言(態②)	学習カードまとめ		
	50	整理運動・振り返り								
評価	知	①	②	②	②				総括的な評価	
	技			①	②	③				
	思 態		①	②			①	②		

単元の評価規準	知識・技能	○知識 ①器械運動には多くの「技」があり、これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。 ②技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○技能 ①バランスよく姿勢を保つための力の入れ方、バランスの崩れを復元させるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止することができる。 ②体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。 ③全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくなるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転することができる。
	思考・判断・表現	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や発表を行う方法を見つけ、仲間に伝えている。
	主体的に学習に取り組む態度	①健康・安全に留意している。 ②練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

手立て②学習内容の視覚化，知識の明確化

掲示物

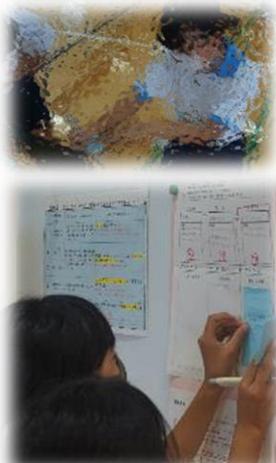
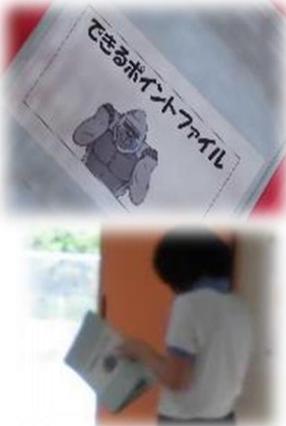
技術ポイントファイル

付箋の活用

コロナ
対策

ICTの活用

よい助言を行っている姿を全体に共有



課題発見

思考を促す

深い学び

知識・技能の
再確認

学んだ知識を活用し，効果的なアドバイスを送ることで技の習得につながった。



評価の観点

【 思考・判断・表現 】

評価規準	提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えている。
------	---

十分満足 (A) の回答例

着地の時にまがっているので、
段差マットを使ってひざを
のびやす感覚をつかんで
チャレンジしよう!

できるポイントファイルや掲示物などを参考に、具体的に課題や出来栄を記述している。

努力を要する (C) の回答例

あとはいまのいい
がんばらう

資料や事例を参考にしておらず、仲間の課題や出来栄を記述するに至っていない。

評価の具体（知識・技能の関連）

知・技の関連



思考する場面



発表会



技の習得につながった

記述のポートフォリオ（ワークシート）

器械運動の楽しさについて

1時間目

わざかできた時の楽しさ。
友達と教え合うことの楽しさ。

毎時間の振り返りシート

スライム作り	チームがわけての楽しさ	僕はショットコートに	スライム作り
...
11月18日(水) 授業を終えて	11月19日(木) 授業を終えて	11月20日(金) 授業を終えて	11月24日(火) 授業を終えて

1

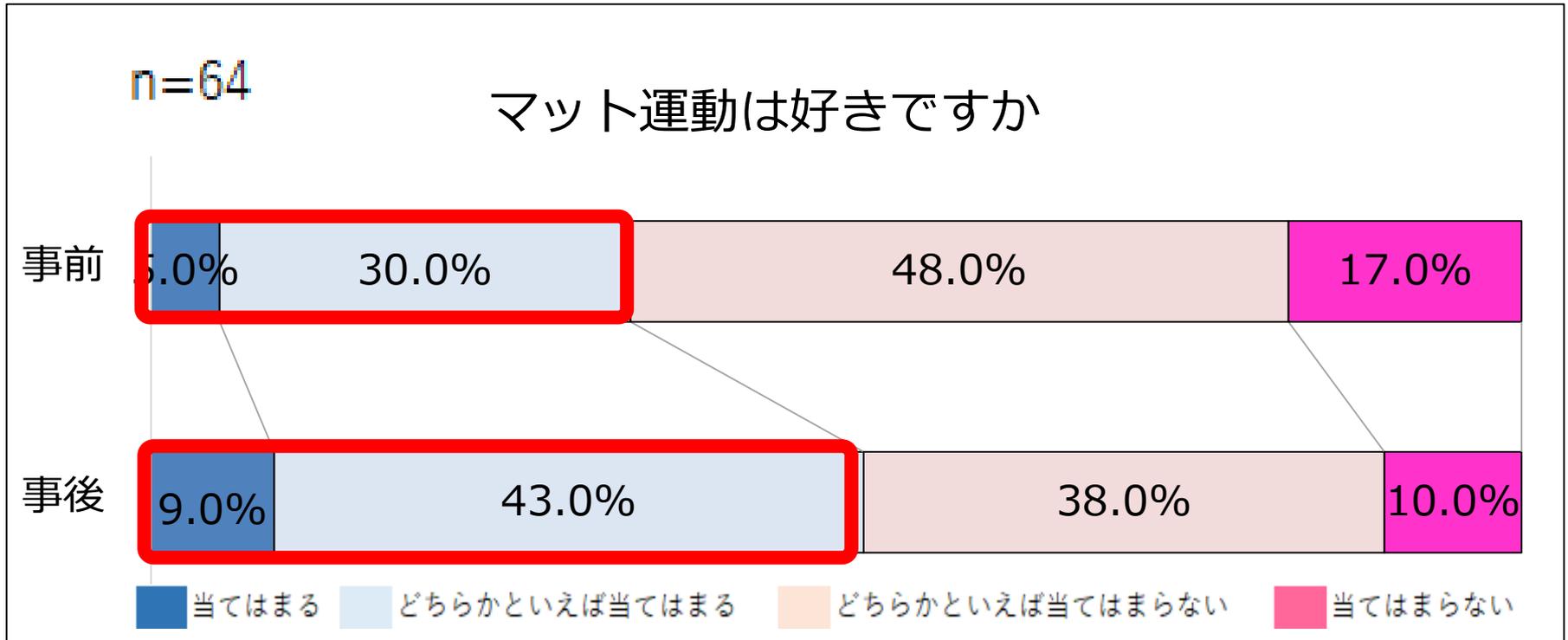
8

記述の質的・量的向上

8時間目

友達と教え合て、1人ではできないことを協力しながらできる楽しさ。
友達に教えて、友達かできた時のうれしさ。
1つ1つの技のポイントを映像などを見て、ポイントが全てできたことの楽しさ。
1時間目より友達と教えあってポイントをし、かっできた時の友達との楽しさ。
「○○かできていたよ」と言われた時のうれしさ。みんなで声をかけて協力するときの楽しさ。

生徒の意識変容



協働して取り組む場面の設定が、主体的に取り組むことにつながった。

成 果

環境整備やICTの活用が、興味・関心を高め、知識及び技能の再確認ができ、思考を促すための手立てとして有効であった。

苦手意識をもっていた生徒が周囲とのかかわりを通して主体的に楽しみながら授業に参加することができた。



開脚前転でタイミングの良い脚の開き方をアドバイスしてもらってできるようになりました！

体育分野 実践Ⅱ

第3学年

球技「バスケットボール」

1時目の生徒の様子



10時目の生徒の様子



空間を作り出して攻防を展開

手立て① 単元設計による指導と評価の明確化

単元 の 目 標	知識及び技能	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
	学習に向かう力、人間性等	球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについて話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
学 習 の 流 れ	0	出席確認・健康観察									
	5	ウォーミングアップ									
	10	オリエンテーション 前年度の内容の 振り返り 学習見直し 約束事	ジグソー活動 説明	エキスパート 活動 オフェンス ディフェンス	ジグソー活動 で得た知識を 活用しチーム の課題にあっ た練習	ジグソー活動 で得た知識を 活用しチーム の課題にあっ た練習	作戦確認	審判についての知 識	ボールを 持たない動き 守備を中心し たチーム練 習	チーム課題に合った練習	
	15	チーム練習 シュート ゴール下 ドリブル フリードリブル フリードリブル 対面 ディフェンス	エキスパート 活動 シュート ボールハンドリング	ジグソー活動 オフェンス ディフェンス	エンドスロ イン	自チーム・相手 チームの特徴を 捉えた作戦を立て る	確認ゲーム 1 作戦を活かした ゲーム	ボールを 持たない動き 守備を中心し たチーム練習	確認ゲーム 1 攻守のバランスの 取れた作戦を活か したゲーム	確認ゲーム 1	
	20	チーム練習 シュート ゴール下 ドリブル フリードリブル フリードリブル 対面 ディフェンス	エキスパート 活動 シュート ボールハンドリング	ジグソー活動 オフェンス ディフェンス	エンドスロ イン	自チーム・相手 チームの特徴を 捉えた作戦を立て る	確認ゲーム 1 作戦を活かした ゲーム	ボールを 持たない動き 守備を中心し たチーム練習	確認ゲーム 1 攻守のバランスの 取れた作戦を活か したゲーム	確認ゲーム 1	
	25	チーム練習 シュート ゴール下 ドリブル フリードリブル フリードリブル 対面 ディフェンス	エキスパート 活動 シュート ボールハンドリング	ジグソー活動 オフェンス ディフェンス	エンドスロ イン	自チーム・相手 チームの特徴を 捉えた作戦を立て る	確認ゲーム 1 作戦を活かした ゲーム	ボールを 持たない動き 守備を中心し たチーム練習	確認ゲーム 1 攻守のバランスの 取れた作戦を活か したゲーム	確認ゲーム 1	
	30	チーム練習 シュート ゴール下 ドリブル フリードリブル フリードリブル 対面 ディフェンス	エキスパート 活動 シュート ボールハンドリング	ジグソー活動 オフェンス ディフェンス	エンドスロ イン	自チーム・相手 チームの特徴を 捉えた作戦を立て る	確認ゲーム 1 作戦を活かした ゲーム	ボールを 持たない動き 守備を中心し たチーム練習	確認ゲーム 1 攻守のバランスの 取れた作戦を活か したゲーム	確認ゲーム 1	
	35	試しのゲーム	ジグソー活動 シュート ボールハンドリング	確認ゲーム 自チーム・相手 チームの特徴を 分析し、基本的なボ ール操作・攻撃を中 心としたゲーム	確認ゲーム 自チーム・相手 チームの特徴を 分析し、基本的なボ ール操作・攻撃を中 心としたゲーム	確認ゲーム 自チーム・相手 チームの特徴を 分析し、基本的なボ ール操作・攻撃を中 心としたゲーム	確認ゲーム 2 作戦を活かしたゲ ーム	確認ゲーム 2 ボールを 持たない動き 守備を意識し たゲーム	確認ゲーム 2 チームタイムアウト を活かしたゲ ーム	確認ゲーム 2	
	40	試しのゲーム	ジグソー活動 シュート ボールハンドリング	確認ゲーム 自チーム・相手 チームの特徴を 分析し、基本的なボ ール操作・攻撃を中 心としたゲーム	確認ゲーム 自チーム・相手 チームの特徴を 分析し、基本的なボ ール操作・攻撃を中 心としたゲーム	確認ゲーム 自チーム・相手 チームの特徴を 分析し、基本的なボ ール操作・攻撃を中 心としたゲーム	確認ゲーム 2 作戦を活かしたゲ ーム	確認ゲーム 2 ボールを 持たない動き 守備を意識し たゲーム	確認ゲーム 2 チームタイムアウト を活かしたゲ ーム	確認ゲーム 2	
	45	試しのゲーム	ジグソー活動 シュート ボールハンドリング	確認ゲーム 自チーム・相手 チームの特徴を 分析し、基本的なボ ール操作・攻撃を中 心としたゲーム	確認ゲーム 自チーム・相手 チームの特徴を 分析し、基本的なボ ール操作・攻撃を中 心としたゲーム	確認ゲーム 自チーム・相手 チームの特徴を 分析し、基本的なボ ール操作・攻撃を中 心としたゲーム	確認ゲーム 2 作戦を活かしたゲ ーム	確認ゲーム 2 ボールを 持たない動き 守備を意識し たゲーム	確認ゲーム 2 チームタイムアウト を活かしたゲ ーム	確認ゲーム 2	
50	振り返り・次時の確認	振り返り・次時の確認									
評 価	知	知①	知②								
	技			技①	技②				技③		
態	思・判・表										
	態										
		総合的な評価									

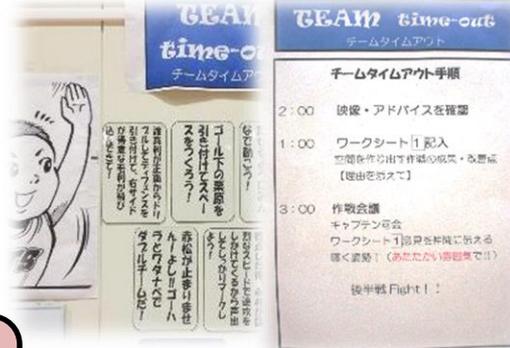
単元 の 評 価 規 準	知識・技能	○知識 ①練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、学習した具体例を挙げている。
	思考・判断・表現	○技能 ①パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができる。 ②ゴール前広い空間を作りだすために、守備者を引きつけてゴールから離れることができる。 ③ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ることができる。
	主体的に学習に取り組む態度	①体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 ②自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ③選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ④球技の学習の成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。

手立て②活動内容の視覚化，知識の明確化

活動空間の
環境整備

活動内容の視覚化

ICTの活用



思考を促す

深い学び



学んだ知識の活用
生徒相互の効果的なアドバイス



作戦の修正

手立て②（知識構成型ジグソー活動について）



手立て②（知識構成型ジグソー活動について）



全員がいずれかのコーチとして各チームで活動

- ・スキルアップコーチ
- ・シュートコーチ
- ・ディフェンスコーチ
- ・オフェンスコーチ



手立て②（知識構成型ジグソー活動について）



「友達に説明をすることは難しかったけど、説明をすることで**よりポイントを理解**することができた。」



手立て②（チームタイムアウトについて）

兄弟チームで作戦の確認



映像で確認

各自の意見を出し合う

作戦板で確認



コートで確認



手立て②（チームタイムアウトについて）

【女子生徒の記述】

動きについて**男子に的確に言うてもらう**ことで動きやすくなった。アドバイスされたように、ディフェンスから厳しくマークされた時は背を向けて仲間を呼ぶことで**パスをつなぐことができた**。

共生の視点



手立て②（チームタイムアウト（データの活用））

ゲーム1 6時目

作戦・戦術についての課題を明確にするための工夫

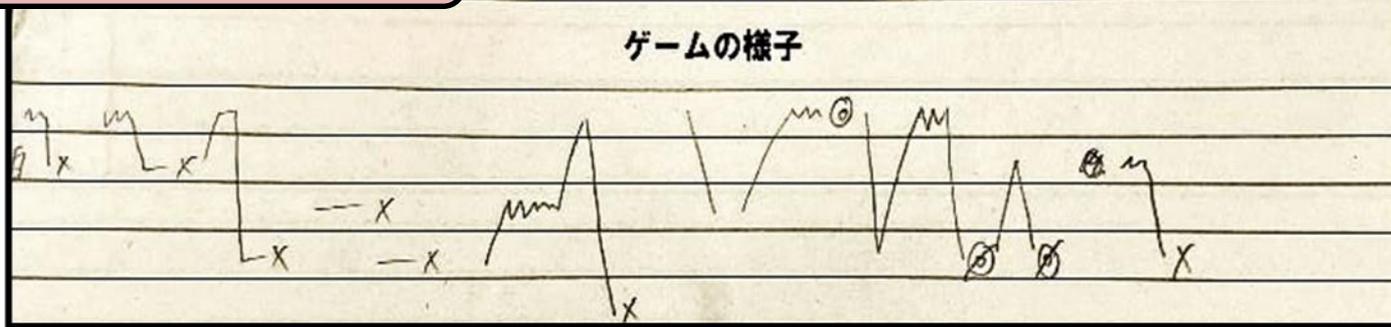
ゲームの様子

誰が何回ボールに触れたか、ボールのつながりを確認



ゲーム2 9時目

ゲームの様子



手立て②（チームタイムアウト（データの活用））

ゲーム1 6時目

作戦・戦術についての課題を明確にするための工夫

ゲームの様子

誰が何回ボールに触れたか、ボールのつながりを確認

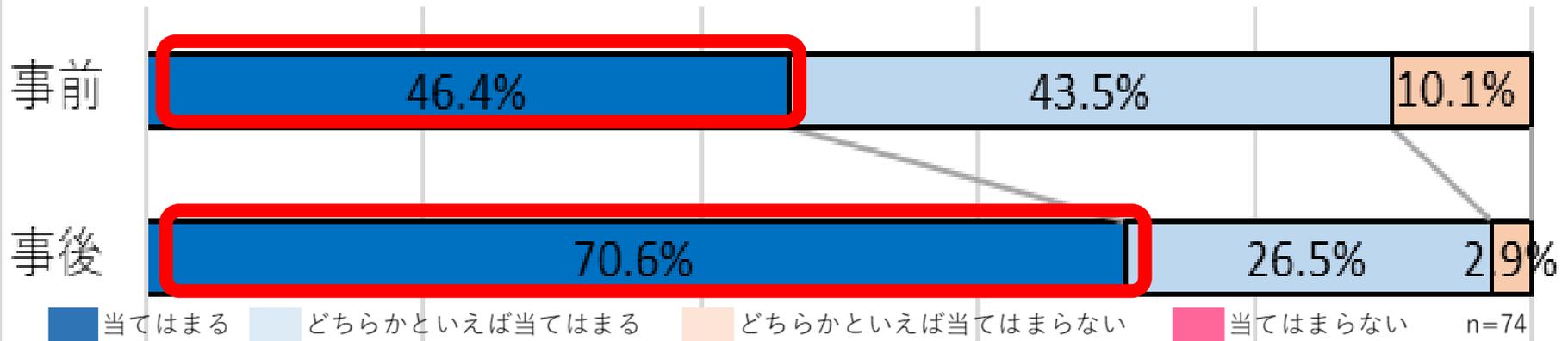
で「女子にボールがあまり
回っていない」とが「分かった
だから、ボールをもった人が困
った後ろに行くとアド

全員が攻撃
に参加

ゲームの様子

手立て②（チームタイムアウトについて）

自分やチームの課題を把握し、目標をもって授業に取り組んでいますか



が居て、深くバスケットボールを楽しむことができた。またタブレットの導入によって自分たちのゲームの課題や良い所などが分かりやすくて。

チームタイムアウトが
課題発見，解決に有効

評価の観点

【 思考・判断・表現 】

評価規準	選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。
------	---

十分満足 (A) の回答例

みんな意識して112に動くこと
空いた空間にパスを渡すことは
できた。
相手は112の後の動きが
112の2の速攻をよくやります。
2-1の動きを決めて守りを開始。

選択した作戦について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果と改善点を理由と共に記述できている。

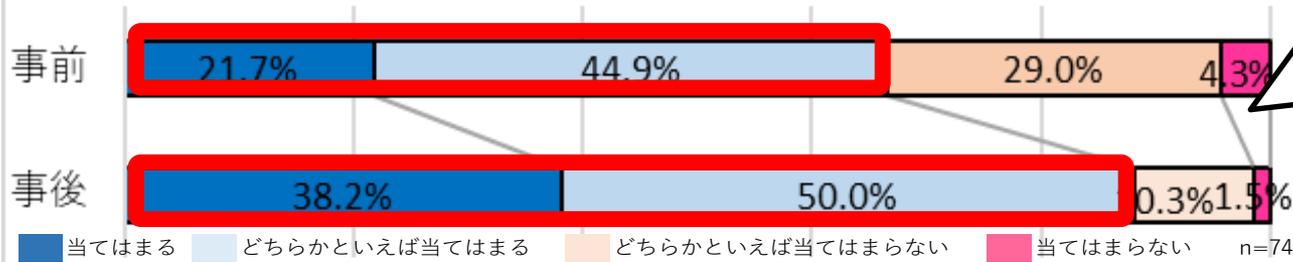
努力を要する (C) の回答例

・昨日より良かった。
・試合時間が足りなかった。

感想や改善すべきポイントのみの記述に留まっている。

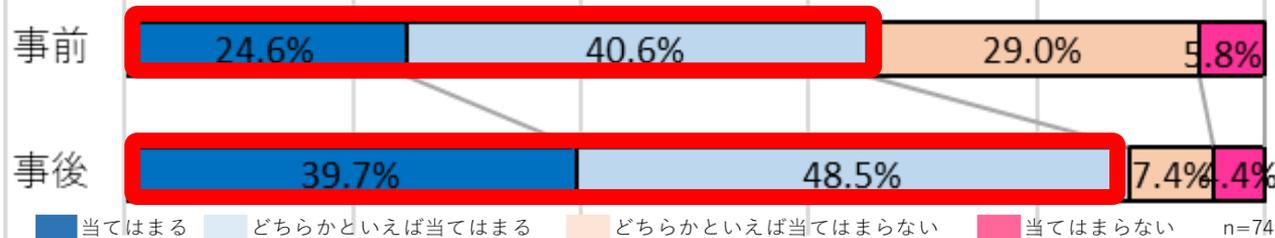
バスケットボール 成果

チームの作戦や戦術を考えることができますか



チームの特徴や相手に合わせた作戦を考えることができる生徒が増加

仲間に自分の考えを伝えることができますか

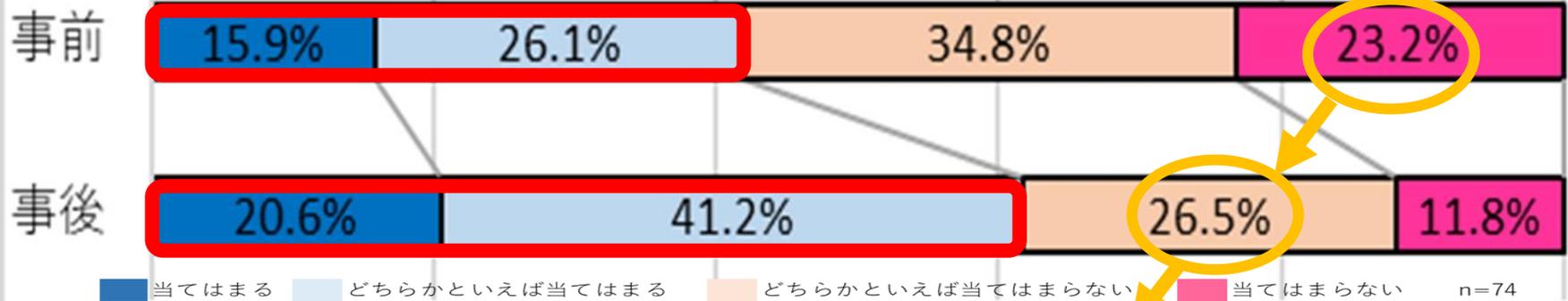


【他チームの試合を分析する場面】
【自チームの作戦を立てる場面】
それぞれの場面で具体的に伝えることができる生徒が増加

思考力, 判断力, 表現力等を高めることができた。

バスケットボール 成果

バスケットボールを生涯スポーツとして実施したいですか



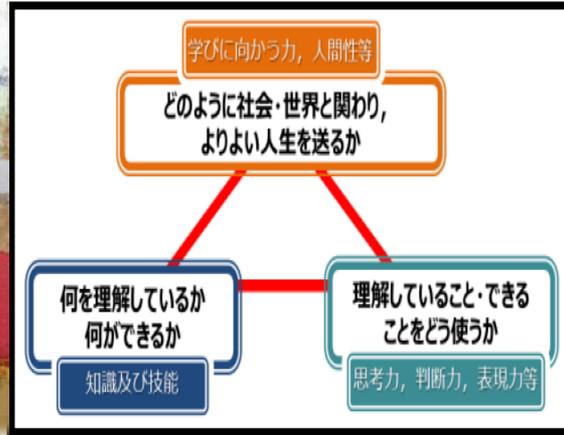
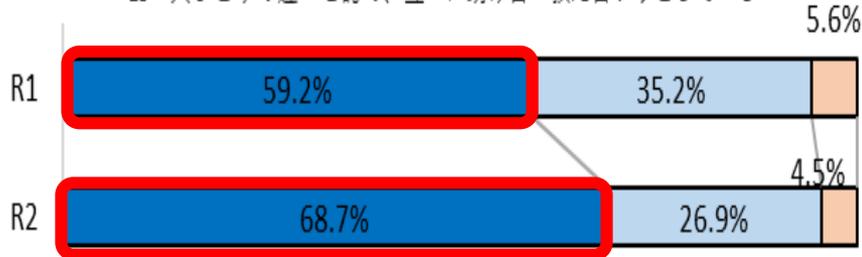
バスケットボールが苦手な女子生徒の記述

他の人からのアドバイスなどを見て自分でもっと頑張りたい
 けど、「上手いプレーができるようになるまで」と思える
 まで、「見るのも楽しく」なため、「数少ない指導」
 また、「応援している人ももう一回」の「あーい」とか

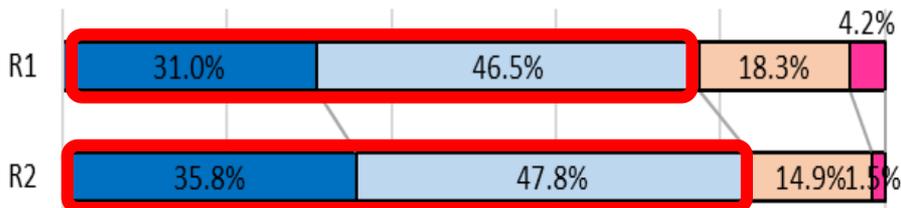
「する、見る、
支える、知る」
の視点

体育分野 成果

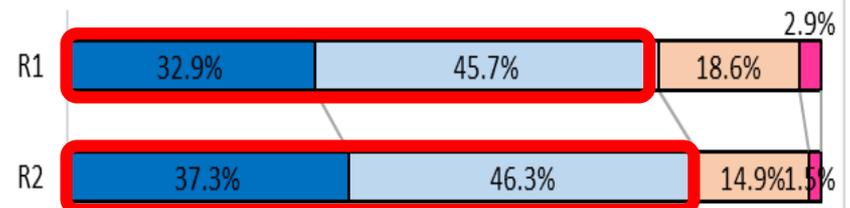
13一人ひとりの違いを認め、互いに助け合い教え合おうとしている



5基本的な技能や動きを身に付け、記録や技に挑戦し試合や発表をしている



9考えて判断したことを仲間に言葉や文字、動作（体育）で表現することができる



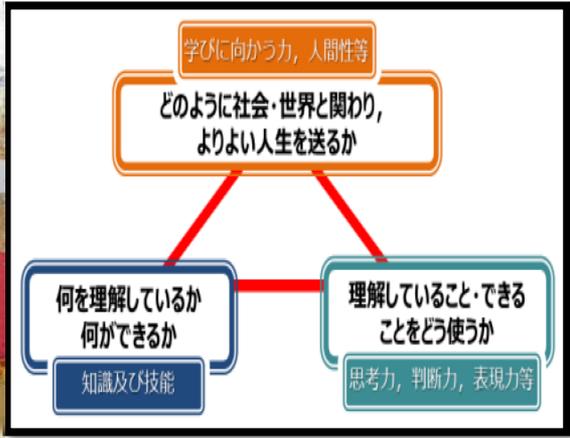
体育分野 成果

最初は男子と女子、おんな本気でやるから合えるから
おんなと男の子で一緒に練習して、おんなの練習は



男女共習の良さ

3つの資質・能力の向上に関わり



課題を把握し、自分たちのできることをどのように生かすか

10時間、すごくあつという間でした。し
ショートもうまくできなかつたけど、授
け仲間と協力して改善していくこと

本格的にやる。男子と女子で一緒にやるから、課題を
見つけ、練習も出来る。おんなも練習出来る。男女混合でやること

体育分野 成果

- 生徒の主体性を重視することで授業改善が進んだ。
- 指導と評価の計画（簡易単元構造図）を作成することで、
指導と評価を明確にすることができた。
- データの蓄積が根拠に基づいた指導につながった。
- 思考力、判断力、表現力等に着目して実践を行ったが、
3つの資質・能力の向上には関わりがあることを実感した。

保健分野 実践Ⅰ

第3学年

「健康な生活と疾病の予防」

単元目標

知識	健康な生活と、生活習慣病などの予防について、理解することができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	生活習慣病などの予防に関わる事象や情報から自他の課題を発見し、生活習慣病などのリスクを軽減したり、生活の質を高めたりする視点から解決方法を考え、適切な方法を選択するとともに、それらを伝え合うことができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	生活習慣病などの予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

		1	2	③本時	4
学習の流れ	10	日本の死因について考える めあて	前時の振り返りをする めあて	前時の振り返りをする めあて	がんに対するイメージを出し合う めあて
	20	生活習慣病について理解する	心臓病、脳卒中、糖尿病の原因から、予防の仕方を考える	これまでや現在の自分の生活習慣を振り返り、健康課題を確認する	がんの仕組みと原因について理解し、予防の仕方を考える
	30	心臓病、脳卒中、糖尿病の症状や原因を調べる。		健康課題をもとに、予防の仕方を考える	
	40	班で、調べたことをまとめ 全体で共有する	予防の共通点を考える	班や全体で共有したことをもとに、自分の健康課題に対する予防法を考える	生活習慣病とがんの予防の共通点を考える
	50	まとめ	まとめ	まとめ	まとめ
	知識・技能	①			②
思考・判断・表現		①		②	
主体的に学習に取り組む態度	①			②	

評価規準

知識・技能	①不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、様々な生活習慣病のリスクが高まることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ②がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、要因として、不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。
思考・判断・表現	①生活習慣病の予防における事柄や情報などについて、習得した知識を活用し生活習慣病を予防するための方法を選択している。 ②生活習慣病などの予防について、個人の生活と関連付け、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法を選択している。
主体的に学習に取り組む態度	①生活習慣病の知識を習得する場面で、資料をもとに調べ、その原因を発見しようとしている。 ②生活習慣病やがんの予防について仲間と情報交換して解決方法を修正したり、別の方法を追加したりしようとしている。

本時の展開につながる内容のCMやクイズによって、気づいたことや考えたことを発表する。



導入で海外のCMを活用



地域ごとの小学生の肥満傾向をクイズ形式で考えさせる



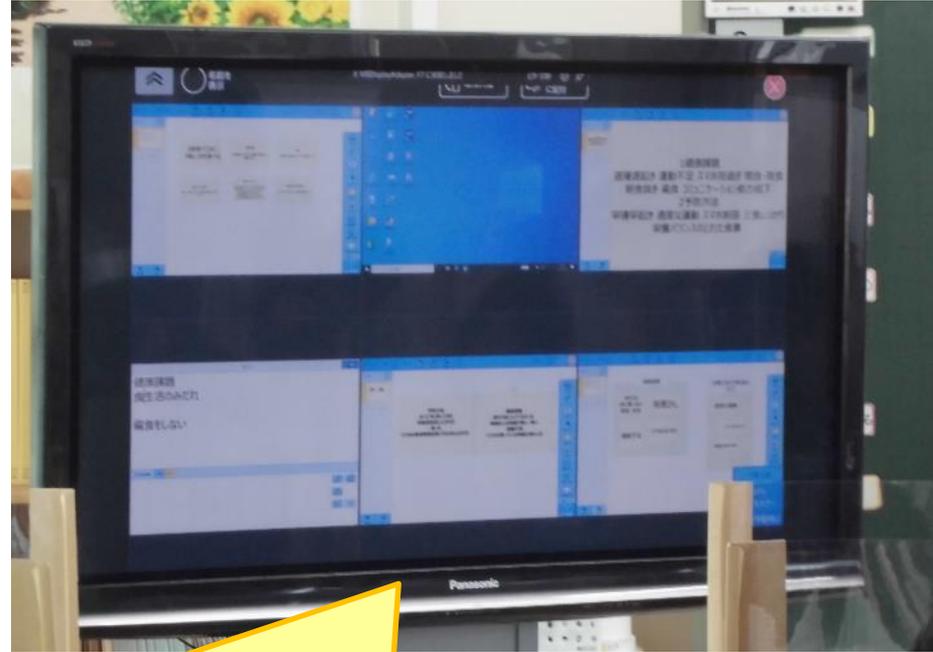
保健室周辺にポスターを掲示

- ・ 生徒の興味・関心を喚起するポスターを掲示
- ・ 予習や復習に活用

生活での健康課題と生活習慣病の予防法を考えよう



タブレットのノート機能を使い、班ごとに考えを入力



他の班の考えを常に見ることが出来る工夫

↑
スクールシールドを使用

生活での健康課題と生活習慣病の予防法を考えよう

タブレットを使うことでよかったのは他の
班の考えもテレビで確認できる
ことです。自分だけではわからな
ことも他の人と会話することでわかる

他者と交流することで自分の
考えを整理することができた

ユニバーサルデザインの授業づくり

授業のUD化モデル



授業のユニバーサルデザイン研究会 <http://hwm8.gyao.ne.jp/kokugouniversal/>

スパイラル化

確かな見方・考え方へと導く発問



知識の習得の深まり

見通しや発問に見える化



共有化

焦点化

(思考・判断・表現)

評価規準	生活習慣病などの予防について、個人の生活と関連付け、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法を選択している。
------	--

【発問】 生活での健康課題と生活習慣病の予防法を考えよう

十分満足 (A) の目安	<u>個人の生活と関連付け、</u> <u>根拠をもとに記述して</u> <u>いる。</u>
-----------------	---

記述

部活をやめて運動しなくなって、体重が増えた。運動せず、塾の合間などにお菓子を食べたり塾から帰ってご飯を食べると、エネルギー過多になって肥満の原因になるから、お菓子の食べ過ぎにないようにして、ランニングや筋トレをしていくようにしたい。

努力を要する (C) の目安	健康課題と予防法の記述がなく、感想のみに留まっている。
-------------------	-----------------------------

記述

睡眠は大切だ。

保健分野 実践Ⅱ

第2学年 「傷害の防止」

「傷害の防止」

手立て①単元設計による指導と評価の明確化

単元目標

知識及び技能	交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止、応急手当の意義と実際について、理解することができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	傷害の防止について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

		1 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因	2 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因	3 交通事故などによる傷害の防止	4 交通事故などによる傷害の防止	5 自然災害による傷害の防止	6 自然災害による傷害の防止	7 応急手当	8 応急手当	9 応急手当
学習の流れ	10	学校生活でのけがにつながる場面や、危険箇所を考える。	交通事故のニュースを視聴する。	前時の振り返りをする。	ニュースを視聴する。	実際に起きた自然災害での被害を想起する。	実際に起きた自然災害での被害を想起する。	前時までの復習をする。	前時までの復習をする。	これまでの学習内容を確認する。
		めあて	めあて	めあて	めあて	めあて	めあて	めあて	めあて	めあて
	20	傷害の原因について理解する。	交通事故の原因について理解する。自転車事故の原因となる行為について考える。	人的要因、環境要因、車両要因に対する対策を考える。(7班)	交通事故が起こりうる危険箇所を提示し、どのような危険があるか考え予測する。(7班)	日本や北九州市で起きた自然災害の映像や資料、教科書を用いて自然災害について理解する。	地震などの自然災害に日ごろから備えていることを出し合う。	応急手当の基本や幹部の保護や固定、止血の行い方を理解する。	応急手当の手順や心肺蘇生法の行い方を理解する。	傷害のケースを示した場面カードを選択し、傷害が発生した場面やケガの状況に応じた応急手当の方法と手順、危険を予測し、回避する方法を考える。
	30	防止するための対策を考える。	事例から人的要因、環境要因、車両要因を見付け、全体で共有する。	考えたことを全体で共有する。	予測したことをもとに、交通事故を防止するための対策を考え、タブレットのノート機能に班でまとめる。	傷害を引き起こす危険を予測し、回避する方法を考える。	自然災害による障害を引き起こす危険を3つの場面から予測し、防止するための方法を考える。	直接圧迫止血法、包帯法の実習を2人組で行う。	心肺蘇生法の実習を班で行う。	
	40	班で、調べたことをまとめ、全体で共有する。								
	50	傷害の原因をまとめる。	自分の経験などをもとに交通事故の原因をまとめる。	交通事故の原因や防止について理解したことをまとめる。	考えたことを全体で共有し、危険を回避する方法をそれぞれ選択する。	自然災害の原因や防止について理解したことをまとめる。	考えたことを全体で共有し、危険を回避する方法をそれぞれ選択する。	まとめ	まとめ	単元を通して学んだこと、生活にどのように生かすかをワークシートに記入する。
評価	知識・技能	①	②	③	①	④	②	⑤	⑥	③
	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度				①	①	②			②

知識・技能	<p>①自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②交通事故による傷害は、人的要因、環境要因、車両要因及びそれらの相互の関わりによって発生することや、車両の特性について、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であり、人的要因に対しては、安全に行動すること、環境要因に対しては、交通環境などの整備、改善をすることがあることや、交通事故を防止するためには、自転車や自動車の特性を知り、交通法規を守り、周囲の状況に応じ、安全に行動することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>④自然災害による傷害は、例えば、地震が発生した場合に家屋の倒壊などによる危険が原因となってしまうことや、地震に伴って発生する津波などの二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の防止には、自他の安全を確保するために冷静かつ迅速に行動する必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑤傷害が発生した際に、迅速かつ適切な応急手当は傷害の悪化を防止できることや、応急手当には止血や患部の保護や固定があり、その方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、実習を通して包帯法や止血法としての直接圧迫法ができる。</p> <p>⑥心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当には、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法があり、その方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、実習を通して胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法ができる。</p>
思考・判断・表現	<p>①交通事故による傷害の防止について、習得した知識を活用し、危険を予測し回避の方法を考えノートに記述し、伝えあっている。</p> <p>②自然災害による傷害を引き起こす危険を予測し、回避方法を考え、ノートに記述している。</p> <p>③傷害の状態に合わせて習得した知識を活用し、傷害の悪化を防止する方法や予測される危険、回避方法を考え、選択している。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>①傷害の防止について、健康に関する資料を見たり自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>②傷害の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に自主的に取り組もうとしている。</p>

評価規準

主体的に取り組みたくなる課題の提示



校区を取り上げたニュース



交通事故に関するクイズ



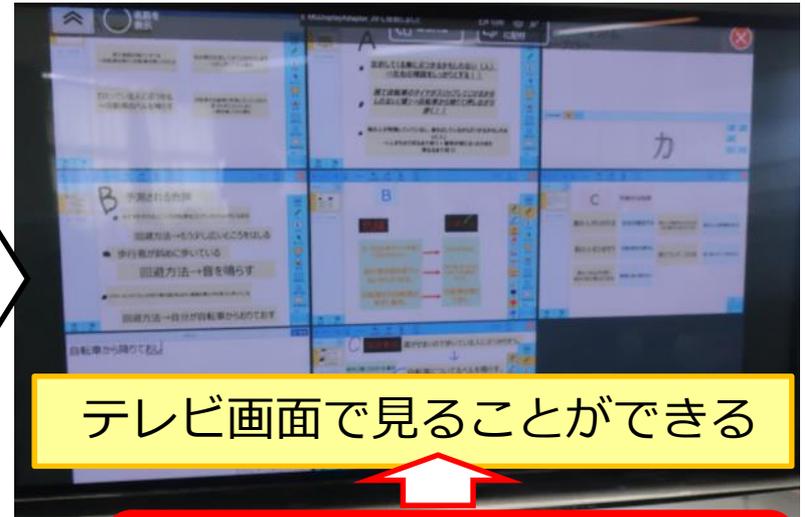
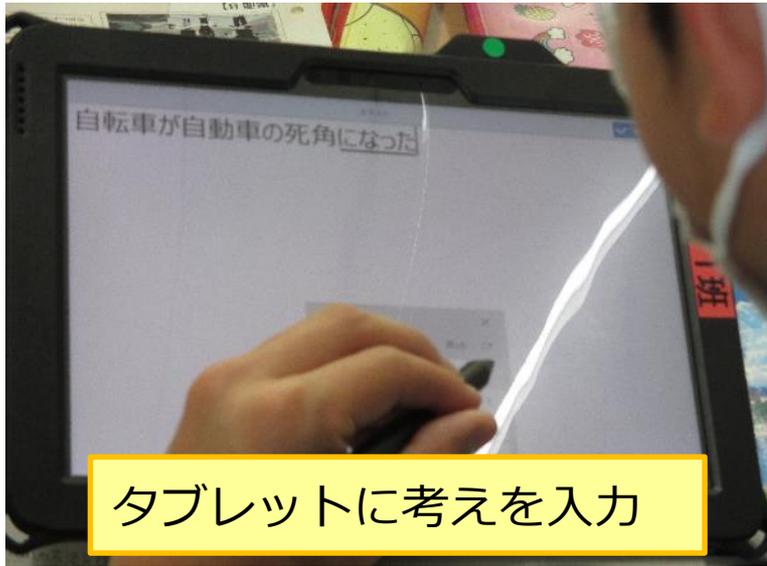
ポスターを掲示

養護教諭等との連携

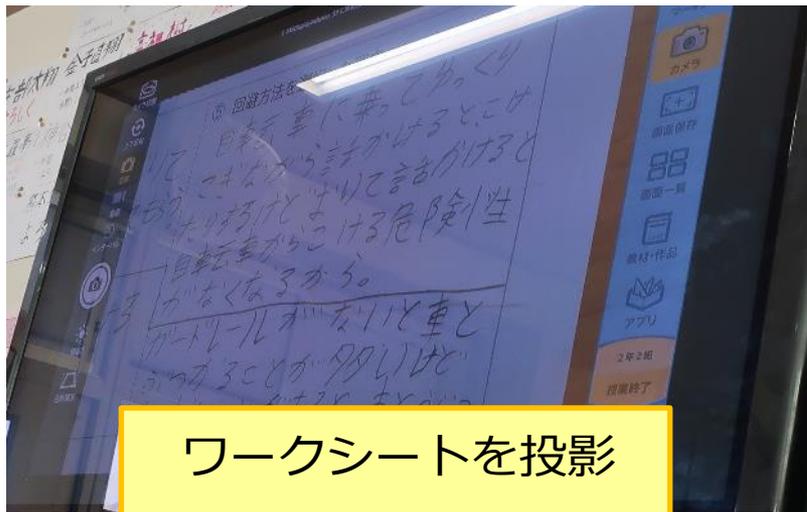
「傷害の防止」

手立て③ ICTの活用

3つの場面から危険を予測し、危険を回避するための方法を伝えよう。



考えを深める



前後に2台設置して見やすく

スパイラル化

確かな見方・考え方へと
導く発問



系統性を意識
習得の深まり



視覚化

ねらいを理解，考えの共有



共有化

焦点化

(思考・判断・表現)

評価規準

交通事故による傷害の防止について、習得した知識を活用し、危険を予測し回避の方法を考えノートに記述し、伝えあっている。

【発問】写真と資料から潜んでいる危険を予測し、危険を回避する方法を考えよう。

十分満足

(A) の目安

回避方法を根拠をもとに選択し、記述している。

努力を要する

(C) の目安

危険の予測のみの記述に留まっている。

記述

カーブの先から車が急にきてぶつかるかもしれないし、道幅も狭くて、ケータイを見ている人とぶつかるかもしれない。先が見えないからミラーをつけると、先から来る車や歩行者に気づいて回避できる。そして、自転車の特性でスピードをゆるめるほどバランスが取れなくなってしまうから、自転車から降りる。

記述

ぶつかるから気を付けて運転する。

保健分野 成果

- 交流活動での肯定的な助言が、生徒の学習意欲の喚起や粘り強く思考することを促した。
- 指導と評価の計画（簡易単元構造図）を作成することで、指導と評価が明確になり見通しをもった指導へつながった。
- ユニバーサルデザインの視点を取り入れたことは、努力を要する生徒（C）の個に応じた指導に効果があった。
- ICTの活用によって、考えを視覚化でき、教師と生徒が共有することに有効であった。

生徒の変容（振り返りシートより）

他者の視点

けでいなく、人それぞれの課題や予防策が「違
り」ことや、自分自身に合った正しい生活習慣を
継続的に良いことを行うことが大切だ」と
気付きました。今の状況下でも、できるこ
とを一つずつ見つけ、対策していこうと思いました。

祖母が糖尿病なので、自分が保健の授業内で学んだこと
を伝えることができたので、日常生活に生かされていると思い

生活との関連

2年間を振り返って

○主題設定の意図

- ・生徒指導上の課題と授業改善



○学校教育目標の具現

- ・UDの視点



○新学習指導要領への教員の準備

- ・一人1台タブレット端末の環境整備と授業実践